

2025年度 第1四半期決算説明会

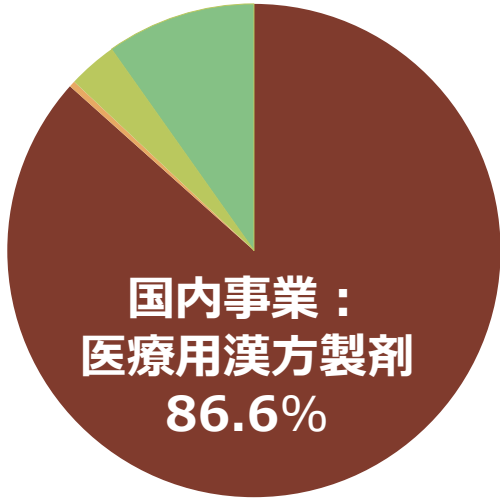
2025年8月5日
株式会社ツムラ

2025年度 第1四半期 決算概況



【百万円】	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比		2025年度 上期計画	進捗率 (対上期計画)
			金額	増減率		
売上高	43,690	43,094	△596	△1.4%	91,500	47.1%
国内事業	40,134	38,871	△1,263	△3.1%	82,000	47.4%
中国事業	3,556	4,223	+667	+18.8%	9,500	44.5%
営業利益	10,575	7,719	△2,855	△27.0%	16,000	48.2%
国内事業	10,713	7,981	△2,732	△25.5%	16,400	48.7%
中国事業	△138	△261	△123	—	△400	—
経常利益	14,118	6,181	△7,936	△56.2%	16,000	38.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,180	4,367	△6,812	△60.9%	11,000	39.7%
PL換算レート※（円/元）	20.63	20.94	+0.31	—	—	—

売上高構成比率



- 中国事業：生薬プラットフォーム 9.8%
- 国内事業：一般用漢方製剤等 3.2%
- 国内事業：その他 0.4%

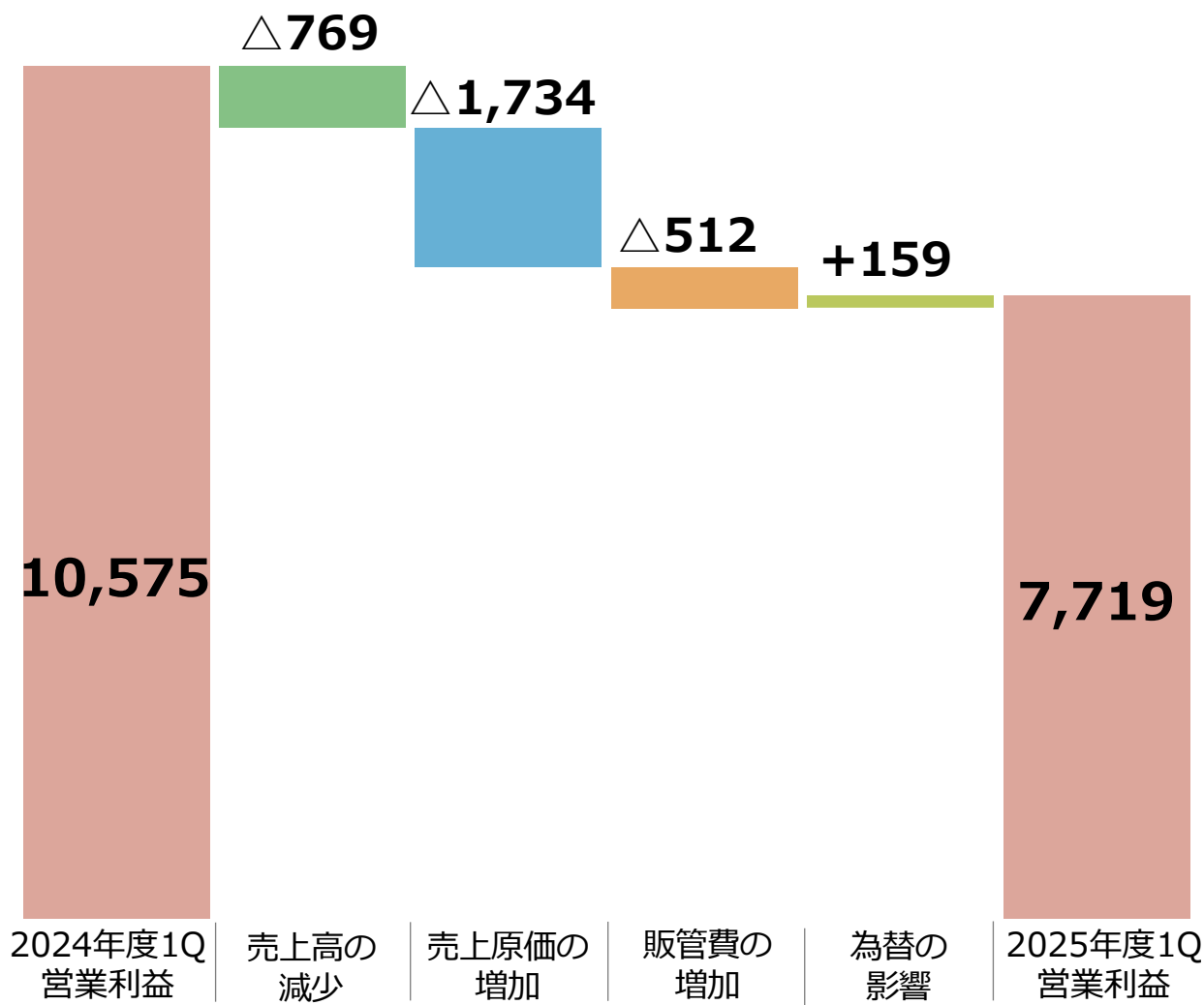
※期中平均レートであり、原料生薬の輸入レートとは異なります

売上高		43,094	百万円	前年同期比	△1.4%	進捗率 (対上期計画)	47.1%
■ 国内事業	医療用漢方製剤（129処方）	： 37,223百万円		前年同期比	4.1%減少		
	一般用漢方製剤等	： 1,375百万円		前年同期比	39.5%伸長		
■ 中国事業	原料生薬、飲片、大健康製品等	： 4,223百万円		前年同期比	18.8%伸長		
営業利益		7,719	百万円	前年同期比	△27.0%	進捗率 (対上期計画)	48.2%
営業利益率		17.9	%	前年同期比	△6.3pt		
■ 原価率	： 52.4% 前年同期比 +4.7pt ： 主に生薬費および加工費の上昇						
■ 販管費率	： 29.7% 前年同期比 +1.6pt ： 主に情報提供活動の強化に伴う費用およびDX関連費用の増加						
経常利益		6,181	百万円	前年同期比	△56.2%	進捗率 (対上期計画)	38.6%
■ 海外子会社への貸付金等に係る為替差損		： 1,698百万円		前年同期は為替差益	3,228百万円		
親会社株主に帰属する 四半期純利益		4,367	百万円	前年同期比	△60.9%	進捗率 (対上期計画)	39.7%

営業利益の増減要因（前年同期比）



（百万円）



（百万円）

売上高の減少　△769百万円			
国内事業（販売数量、販売構成）			△863
中国事業			+94
売上原価の増加　△1,734百万円			
国内事業	生薬費	国内生薬費	△200
		中国エキス粉末に含まれる生薬費	△707
	原資材費		△128
	加工費	国内加工費	+288
		中国エキス粉末の加工費	△865
中国事業	売上高構成比率の増加		△122
販管費の増加　△512百万円			
販売促進費（情報提供に関する費用の増加等）			△136
業務委託費（情報提供に関する基盤強化等）			△119
給与諸手当			△24
その他			△233
為替の影響　+159百万円			

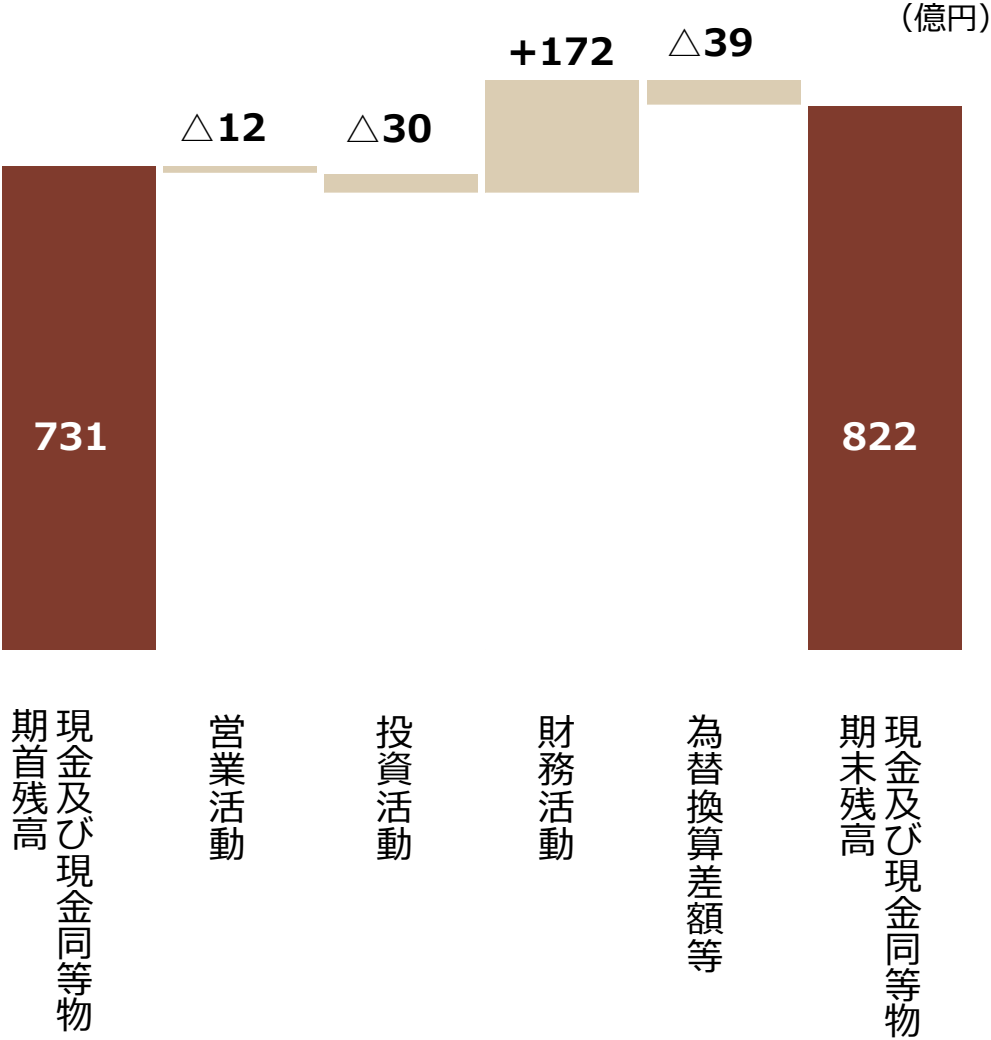
財政状態およびキャッシュ・フロー



(百万円)

	2024年度 (2025年3月末)	2025年度 1Q	増減額
資産合計	464,380	465,585	1,204
流動資産	295,709	299,261	3,551
固定資産	168,670	166,323	△2,346
負債合計	134,270	146,289	12,019
流動負債	61,913	70,305	8,392
固定負債	72,357	75,984	3,626
純資産合計	330,110	319,295	△10,815
自己資本比率	64.7%	62.1%	△2.6pt

	2024年度 (2025年3月末)	2025年度 1Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	133,784	134,226	441	△4,164
商品及び製品	14,939	17,819	2,880	△175
仕掛品	20,197	21,830	1,632	△205
原材料及び貯蔵品	98,647	94,576	△4,071	△3,784



国内事業：医療用漢方製剤 処方別売上高



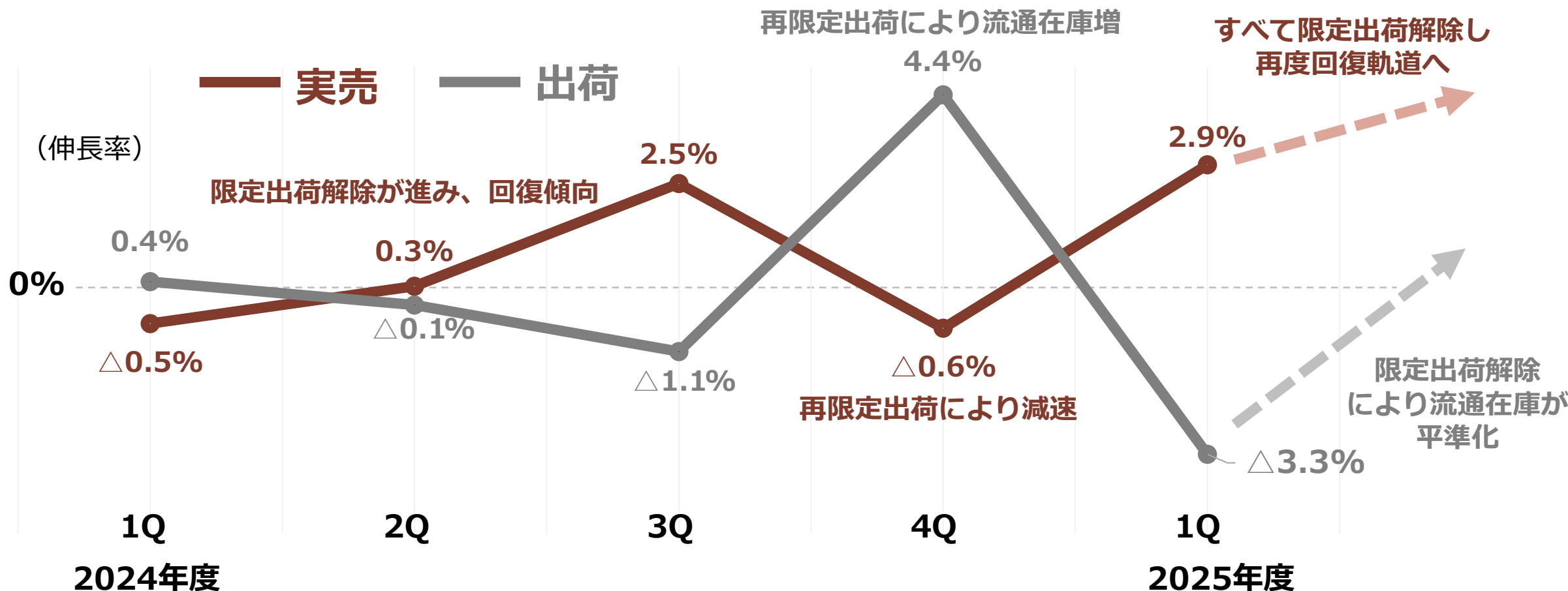
(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2024年度 1Q	2025年度 1Q	前年同期比		【参考：実売数量】 前年同期比
育薬 処方	1	100 大建中湯	3,877	3,632	△245	△6.3%	+4.0%
	2	54 抑肝散	3,040	2,763	△276	△9.1%	+1.7%
	5	43 六君子湯	1,757	1,725	△32	△1.8%	+1.0%
	7	107 牛車腎気丸	1,467	1,391	△76	△5.2%	+3.4%
	25	14 半夏瀉心湯	358	366	+7	+2.2%	+2.4%
育薬処方合計			10,502	9,879	△622	△5.9%	+2.8%
Growing 処方	3	17 五苓散	2,090	2,022	△67	△3.2%	+13.4%
	4	41 補中益気湯	1,800	1,749	△50	△2.8%	△0.1%
	10	24 加味逍遙散	1,199	1,197	△1	△0.2%	+1.8%
	18	137 加味帰脾湯	539	577	+38	+7.2%	+5.9%
	22	108 人參養栄湯	527	462	△65	△12.4%	△5.4%
Growing処方合計			6,157	6,011	△146	△2.4%	+5.6%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			22,161	21,333	△828	△3.7%	+2.3%
医療用漢方製剤129処方合計			38,820	37,223	△1,597	△4.1%	+2.9%

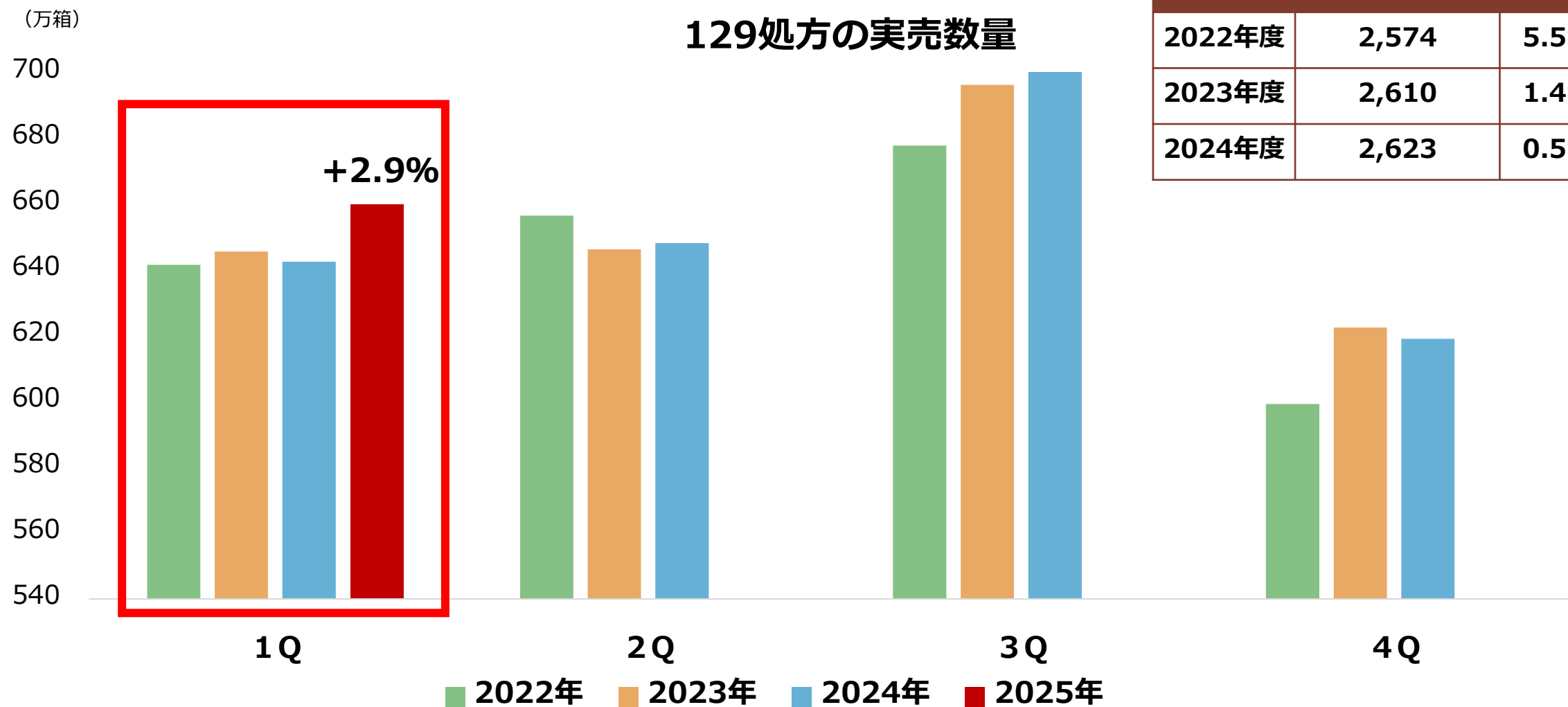
* 実売数量とは、医薬代理店・卸から医療機関に納入された数量

2024年度4Qの実売減少・流通在庫増加の影響により、2025年度1Qの出荷は前年を下回る

医療用漢方製剤129処方の販売数量伸長率（出荷・実売）の推移



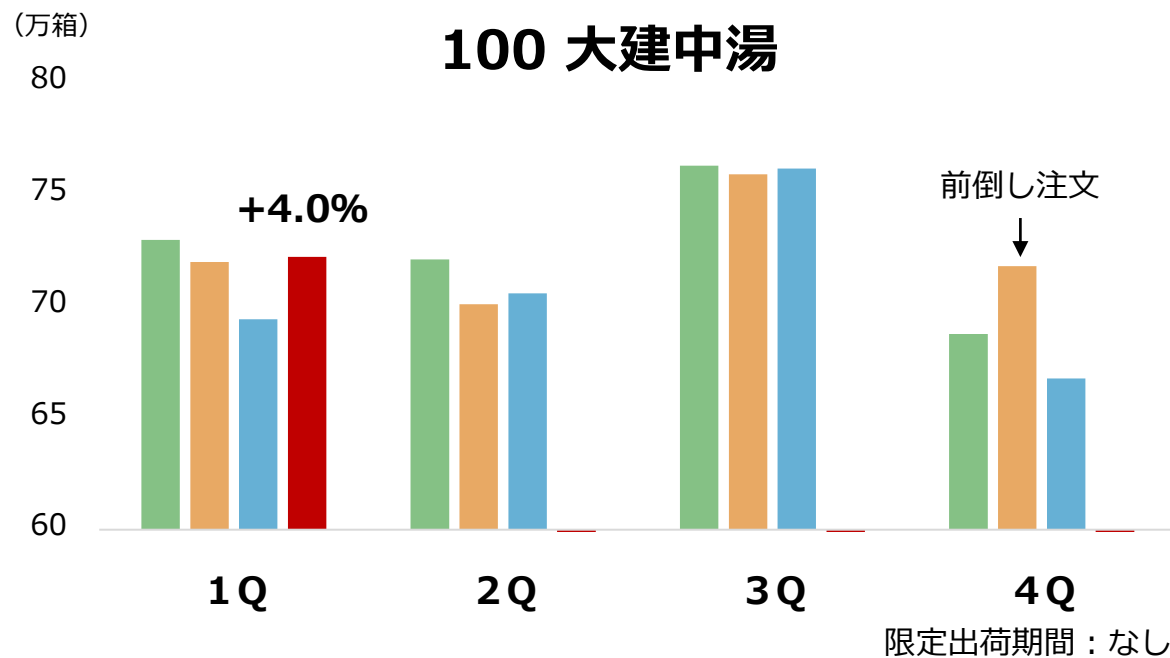
1Qの実売数量*は対前年比+2.9%



国内事業：実売数量推移（大建中湯・抑肝散）



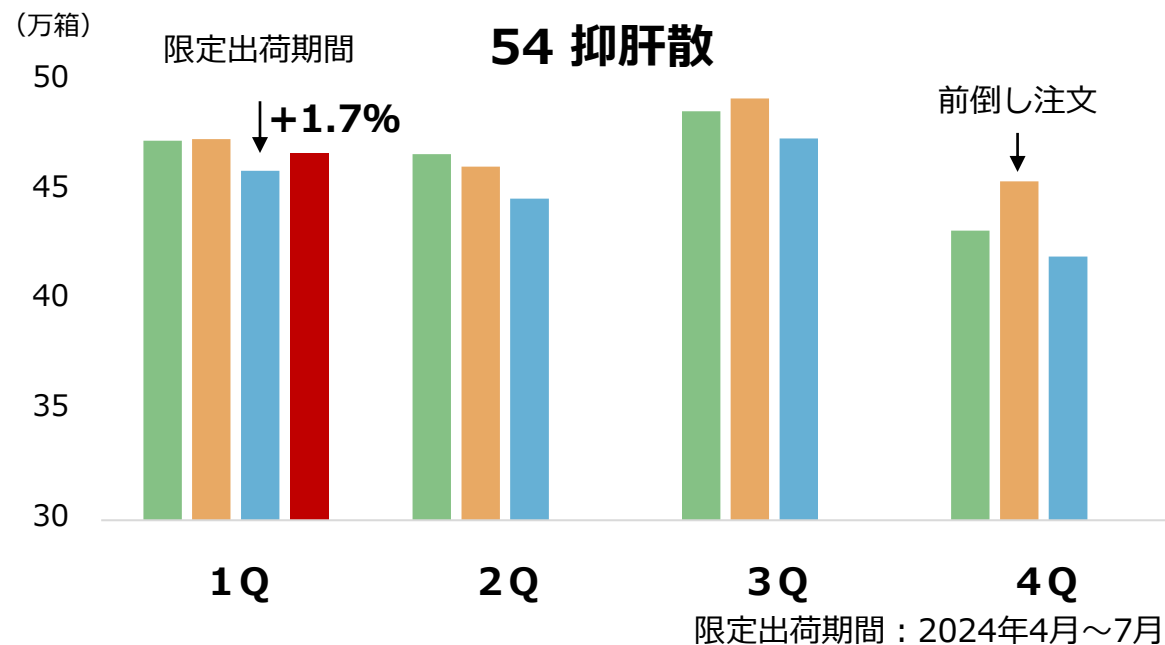
■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



22～23年度：コロナの影響で手術数減少や他処方への限定出荷の影響により横ばい。

24年度：薬価改定による23年度4Qの前倒し注文の影響を考慮するとほぼ横ばい。

25年度：回復基調。22年度の数量までの回復を目指す。



23年度：継続伸長するも限定出荷により減少。

24年度：限定出荷前の前倒し注文の影響や他処方への切替もあり減少。一部処方の再限定出荷もあり回復が遅れる。

25年度：認知症の周辺症状にともなう精神神経症状以外の不眠やイライラなどの症状に展開していく。

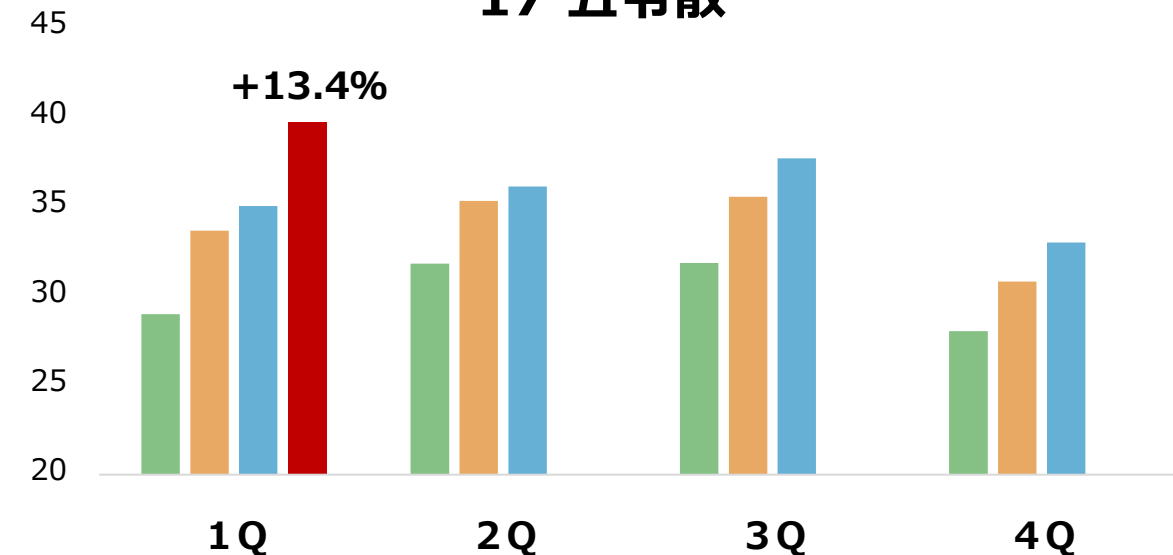
国内事業：実売数量推移（五苓散・人參養栄湯）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

(万箱)

17 五苓散



限定出荷期間：2024年3月～5月

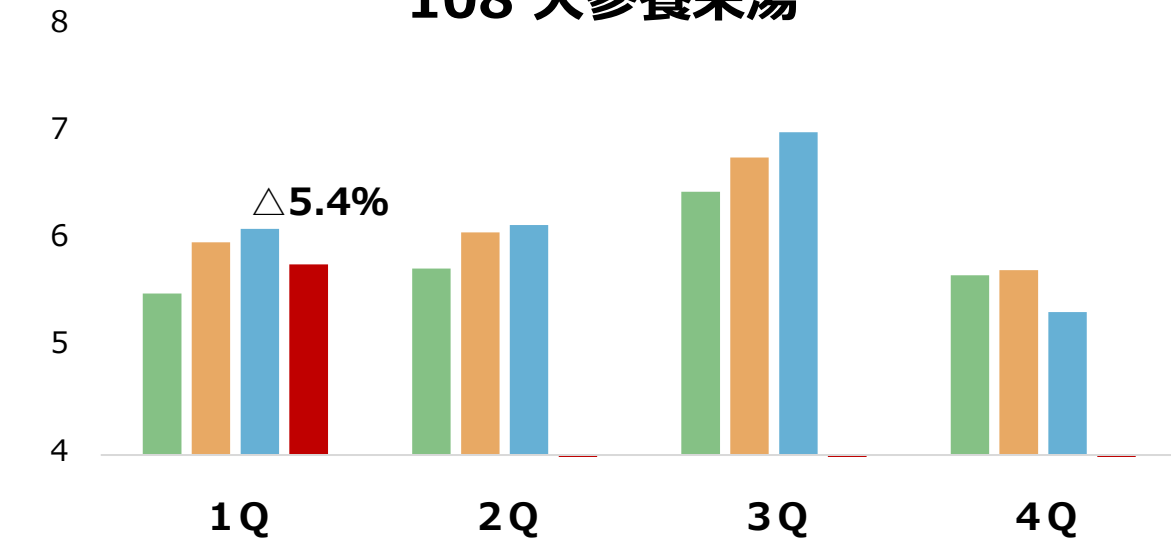
23年度：浮腫、めまい、頭痛等の症状で脳神経外科、耳鼻科等で伸長が継続。

24年度：限定出荷期間に伸び悩んだが、解除後回復。

25年度：心不全診療ガイドラインに収載され、浮腫を伴う症例に処方展開。

(万箱)

108 人參養栄湯



限定出荷期間：2024年12月～2025年1月

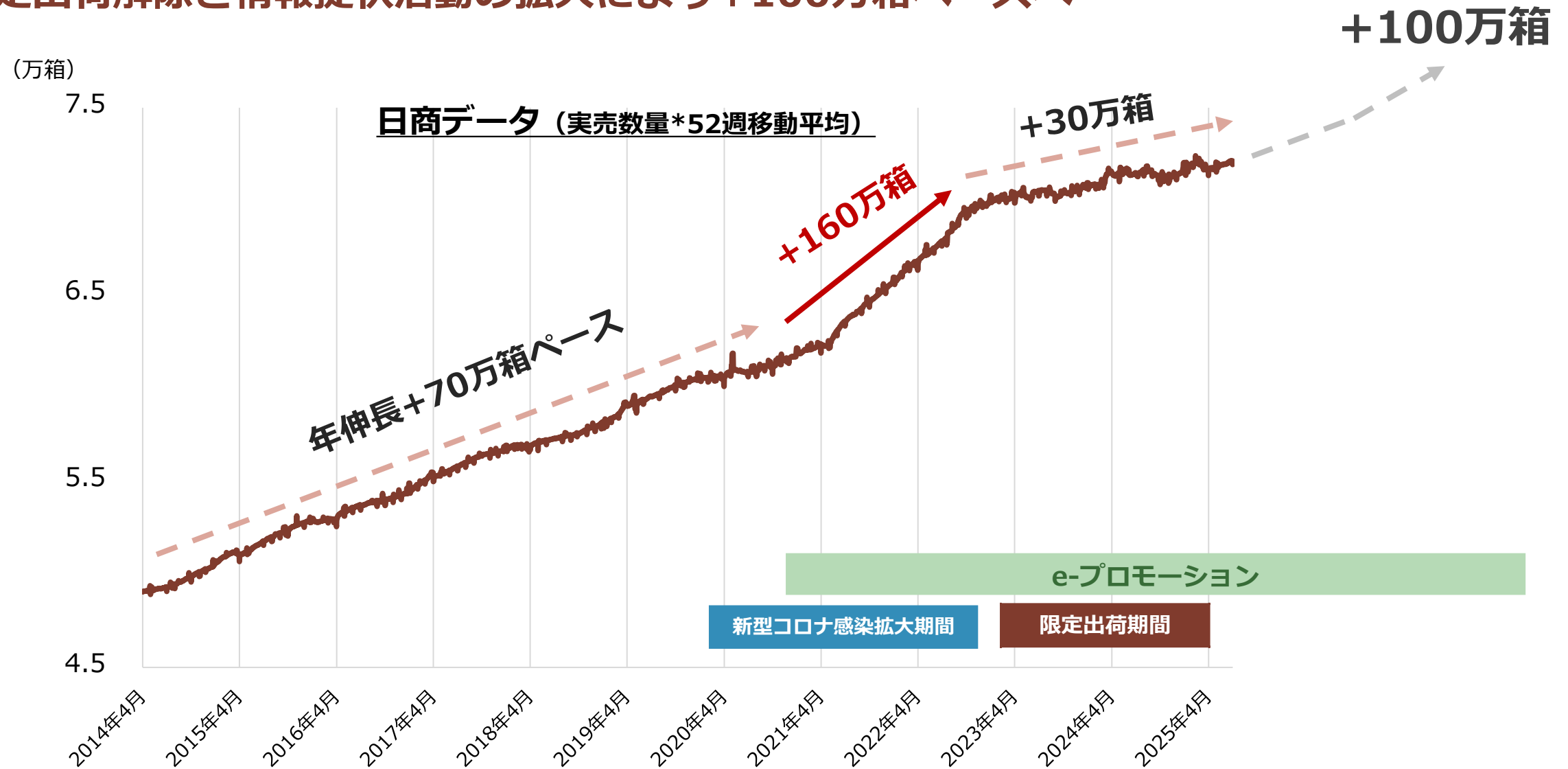
24年度：限定出荷により一部他社製品へ移行。

25年度：1Qに限定出荷を解除したばかりのため回復に時間を要するが、25年度中に昨年度水準までの回復を目指す。

国内事業：医療用漢方製剤129処方の実売数量推移（52週移動平均）



限定出荷解除と情報提供活動の拡大により+100万箱ペースへ

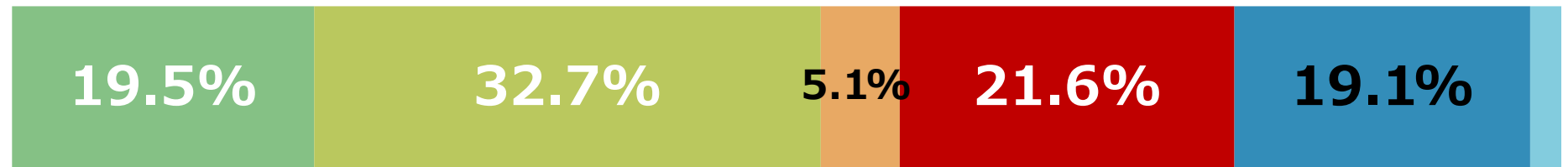


* 実売数量とは、医薬代理店・卸から医療機関に実際に販売された数量

Q. 現在、ツムラ医療用漢方製剤が全品目限定出荷解除になっていることをご存じでしょうか。
今回の限定出荷解除による漢方薬の処方頻度の変化についてもお教えください。

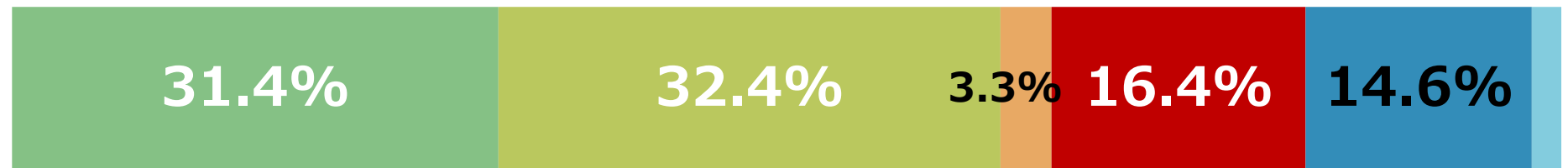
- 既に知っている（処方頻度が以前よりも増えた）
- 知らなかった（今後は処方頻度を増やしたい）
- 既に知っている（依然と変わらない）
- 知らなかった（処方頻度は影響しない）
- 既に知っている（処方頻度は以前よりも下がった）
- 知らなかった（処方頻度は以前よりも下がる）

ケアネット
実施期間：6/17～7/15
(n=21,388)



「調査対象：CareNet.com 医師会員」

**日経
メディカル**
実施期間：6/20～7/3
(n=5,044)



「調査対象：日経メディカル Online 医師会員」

MR未面談医師への情報提供の拡大と漢方オンラインMRの認知が向上

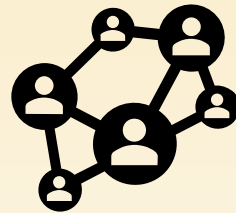
漢方コネクター（医療情報PF）

対象：MR未面談/10処方医師

- メッセージツール

- ・12,000名の医師に情報配信

➡開封率98%、動画視聴率77%と高水準



- 双方向チャットツール

- ・2,300名の医師とのコミュニケーション

➡オンライン勉強会の実施

➡MR活動への波及効果

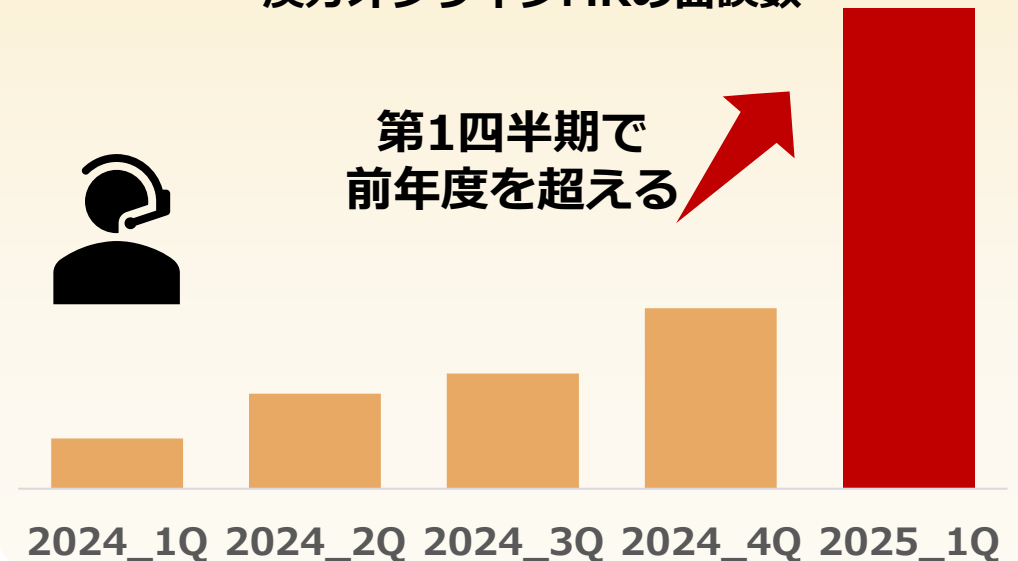


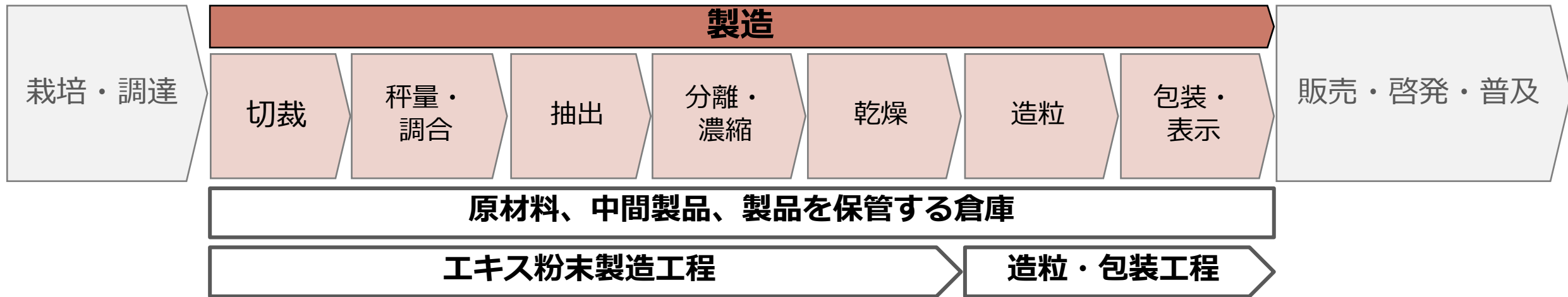
漢方オンラインMR

対象：メディカルサイト登録医師

- 30分/回の面談により深い情報提供

漢方オンラインMRの面談数





日本：茨城、静岡
中国：上海、天津



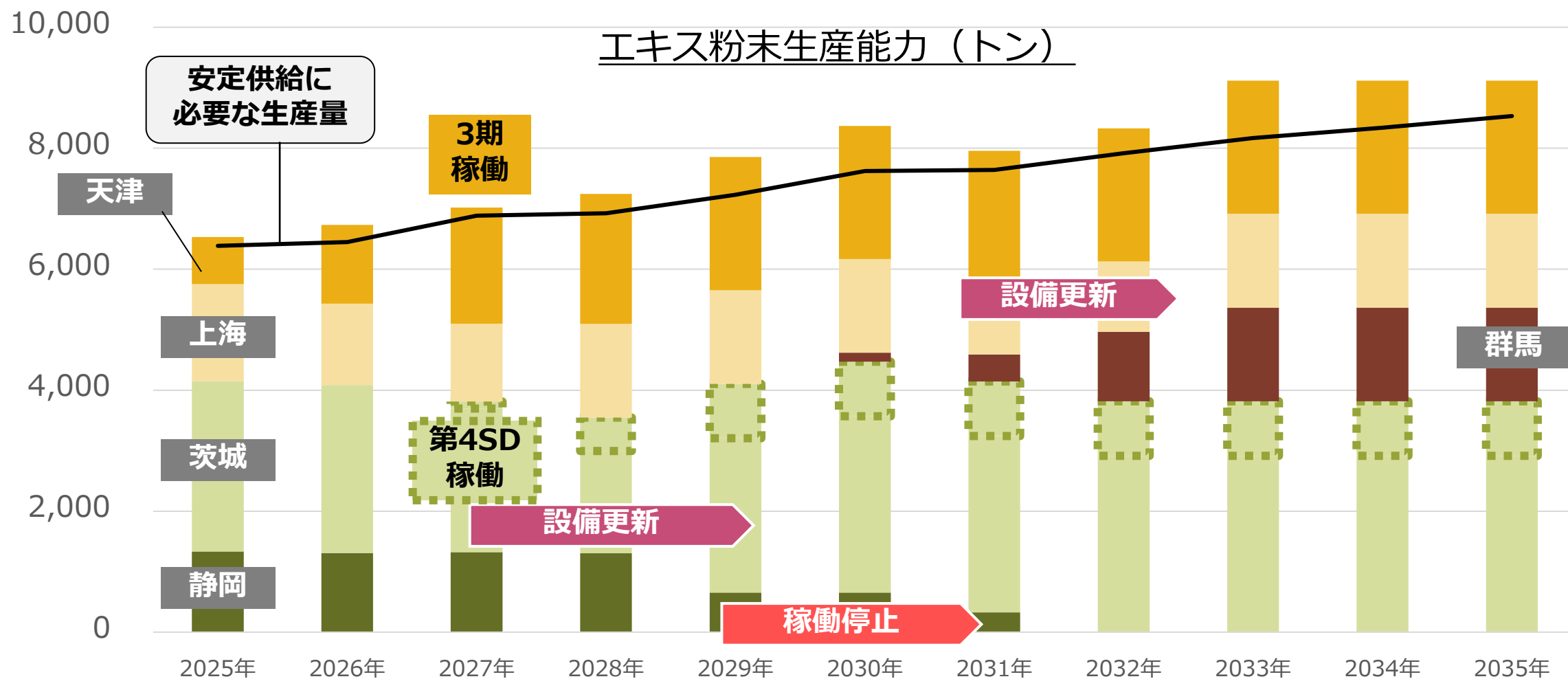
日本：茨城、静岡

設備投資：エキス粉末製造工程

静岡工場：老朽化にともない、2031年度を目途に稼働停止、群馬工場を代替として建設

茨城工場：2027～2029年度に設備更新にともなう減産

上海工場：2031～2032年度に設備更新にともなう減産

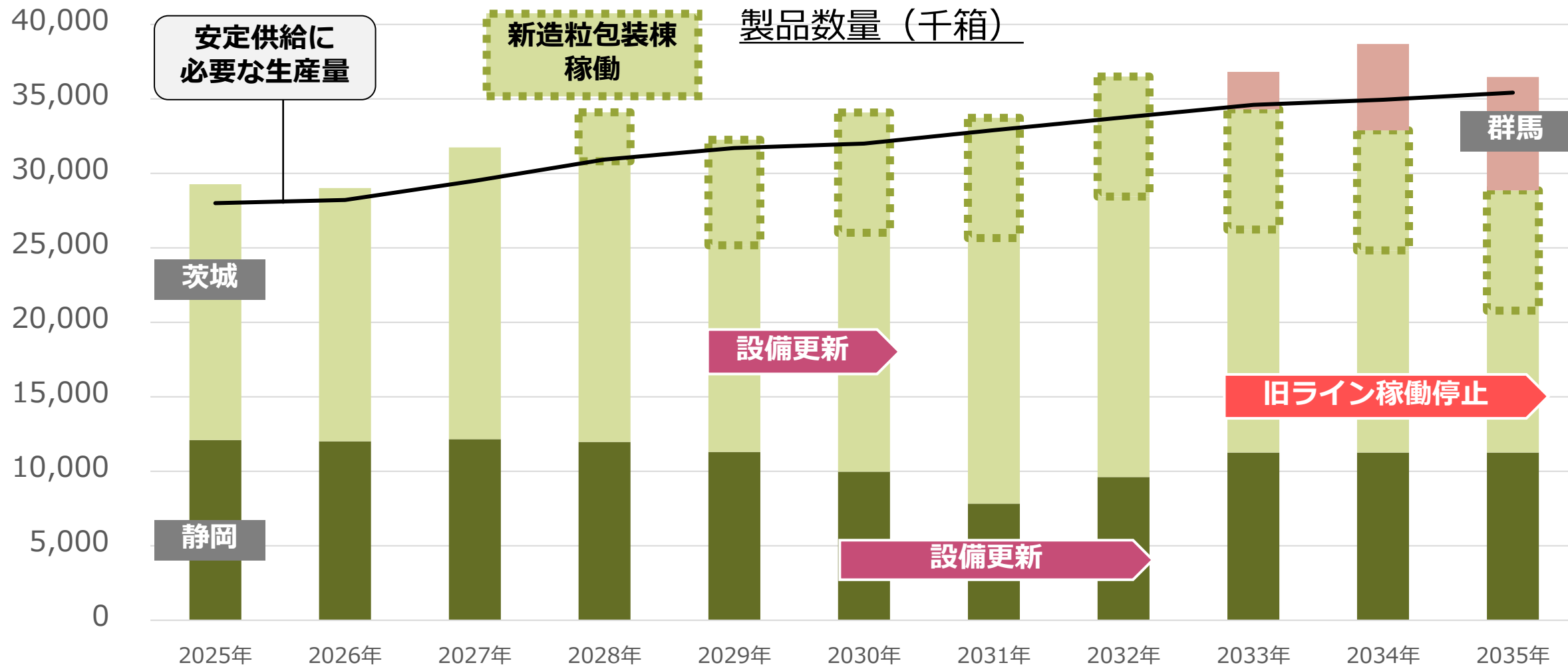


設備投資：造粒・包装工程

静岡工場：2030～2031年度に設備更新にともなう減産

茨城工場：2029～2030年度に設備更新、2035年旧ライン稼働停止予定（延命検討中）

群馬工場：スマートファクトリーを目指し、夜間無人化を含めて設計中（時期後ろ倒しの可能性）



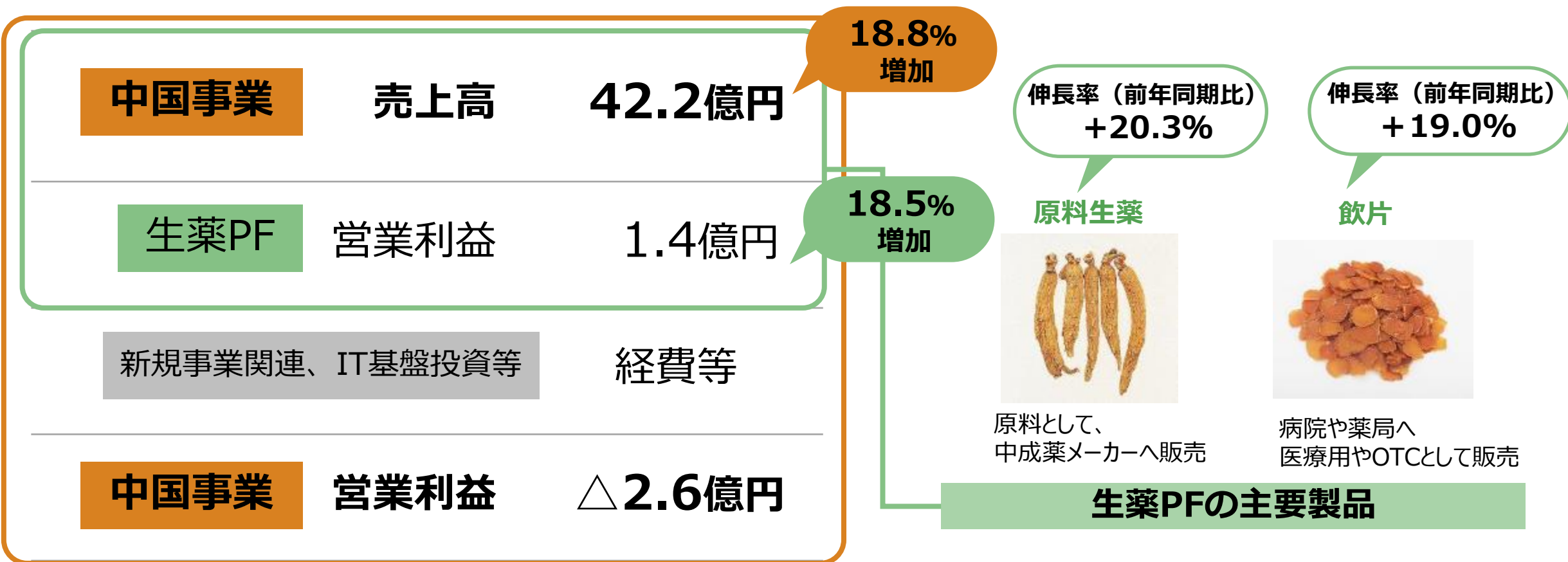
投資：予定している主な大型投資



- ・ 販売数量伸長や老朽化した工場の稼働停止などを見据え、投資を実施
- ・ 個々の案件ごとに可能な限り投資額の圧縮を目指す

製造工程	主な投資内容	1期中計（実績）	2期中計（金額未定）	総額
工キス粉末 製造工程	天津工場（1～3期製造棟および付帯設備等）	220億円	40億円	350億円
	茨城工場（第4SD棟）	80億円	210億円	290億円
	群馬工場（第1、第2SD棟および付帯設備等）	18億円	500億円	未定
造粒・包装工程	茨城工場（新造粒包装棟）	27億円	390億円	415億円
保管能力の増強	茨城工場（第3生薬棟）	23億円	50億円	70億円
	生薬倉庫（夕張、石岡、中国）	14億円	130億円	145億円
その他	品質管理棟（茨城）	—	80億円	80億円
	生産設備更新、省力化等	190億円	340億円	未定
漢方製剤の生産に関わる投資 小計		600億円	1,740億円	
その他			60億円	
総計			1,800億円	

- ・ 生薬プラットフォームは増収増益
- ・ 事業提携の検討、交渉等の先行投資費用により、中国事業の営業利益は赤字



飲片および「一人一方」を中心に、中国国民の健康への貢献を目指す

第1期中期経営計画
2022～2024年度

第2期中期経営計画
2025～2027年度

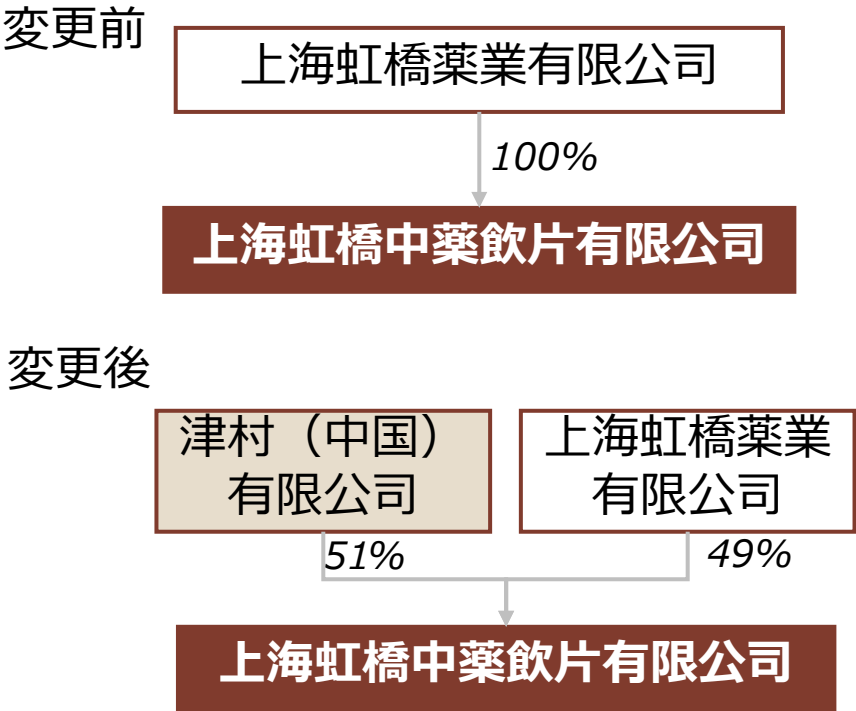
第3期中期経営計画
2028～2031年度



上海虹橋中薬飲片有限公司（以下、虹橋飲片）の概要

所在地	中国上海市
主な事業内容	飲片の製造・販売（上海エリアを中心）
資本金	160百万元（約32億円）
財務 （2024年度）	売上高 10.5億元（約210億円） 営業利益 2.1億元（約42億円）
社員数	512名（2025年7月時点、派遣社員を含む）

資本関係図



交渉の進捗と今後の予定

- 2月6日 飲片事業の推進を目的とした技術・業務提携に関する意向書を締結
- 6月18日 持分取得契約を締結
- 8月（予定） クロージング

- ・ 今後の飲片販売数量の増加を見据えて2020年から新工場を建設、2024年操業開始
- ・ GMPに基づく品質管理体制を整備



虹橋飲片の工場

虹橋飲片の工場の概要

所在地	中国上海市青浦区
事業内容	・ 飲片の製造・販売 ・ 飲片の煎じサービスの提供
操業開始	2024年
建築面積	6.7万平米
飲片の生産量	6,000t（2024年度実績）
製造関係人員	351名（2025年7月時点）

飲片を製造し、病院からの処方箋に基づき煎じを代行、煎液を患者様にお届け

飲片の製造・保管



病院からの処方箋に基づく代理服务

煎じサービス



煎液



小包装飲片



患者様



患者様

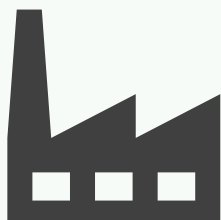


病院



飲片による患者様の治療効果向上、利便性向上

虹橋飲片



- ・多品目な飲片の製造・販売
- ・上海市場における有力な販路
- ・上海における飲片のブランド

生薬プラットフォームの特徴



生薬GACPに基づき畑から管理した高品質な生薬



飲片付加価値サービス「一人一方」



TU-100のP2T4試験の主要結果

- 主要評価項目【消化管機能回復までの時間】は有意差なし
- TU-100 7.5g群において複数の副次評価項目【消化管機能回復患者割合、入院期間等】で有意差あり
- 有害事象発現率はプラセボ群62.3%、TU-100 7.5g群57.0%、TU-100 15g群59.1%



米国KOL等の見解

- ✓ 比較的短い入院期間などの条件にも関わらず、TU-100 7.5g群で
良好なベネフィットリスクプロファイル
- ✓ 入院期間の1日短縮は**臨床的意義あり**
- ✓ TU-100の効果には**複数のメカニズムが働いている**ことが示唆



FDAの見解

- ✓ TU-100 7.5g/日投与に**有効性の傾向があることを認めた**
- ✓ **安全性に関する新たな懸念は示されなかった**

TU-100米国開発の方向性

TU100P2T4試験結果およびビジネス化検討に値する一定の市場を想定しうることを踏まえ

“複雑な腹部大手術の患者集団”を対象に追加臨床試験を検討

市場規模（米国）

- ・対象患者は50~100万人/年
- ・今後も増加が見込まれる

競合薬

- ・既存薬はアルビモパンのみ
- ・開発品はTU-100が先行

投資回収計画

FDAへの相談の結果

《次の臨床試験》

- ✓ 複雑な腹部大手術の患者集団での試験実施に同意した
- ✓ **プロトコール概要に概ね同意した**

2025年度 業績予想



【百万円】	2024年度 実績	2025年度 予想	前年比	
			金額	増減率
売上高	181,093	188,000	+6,906	+3.8%
国内事業	160,459	167,900	+7,440	+4.6%
中国事業	20,633	20,100	△533	△2.6%
営業利益	40,125	34,200	△5,925	△14.8%
国内事業	40,136	34,700	△5,436	△13.5%
中国事業	△10	△500	△489	—
経常利益	42,446	34,000	△8,446	△19.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,428	23,000	△9,428	△29.1%
PL換算レート (円/元)	21.04	20.30	△0.74	—

ROE	11.4%	7.5%
EPS	427.15円	302.95円

今後の予定

- ・ 虹橋飲片の連結
- ・ 販管費の抑制
- ・ 設備投資額の圧縮
- ・ 政策保有株式の売却

(注) ・ 営業外損益（主に海外子会社への貸付金等に係る為替差益）および特別利益（主に政策保有株式の縮減による売却益）については、為替相場や株式市場の状況から、合理的に算定することが困難であるため、業績予想には織り込んでおりません。

コーポレート・コミュニケーション部

I R推進課

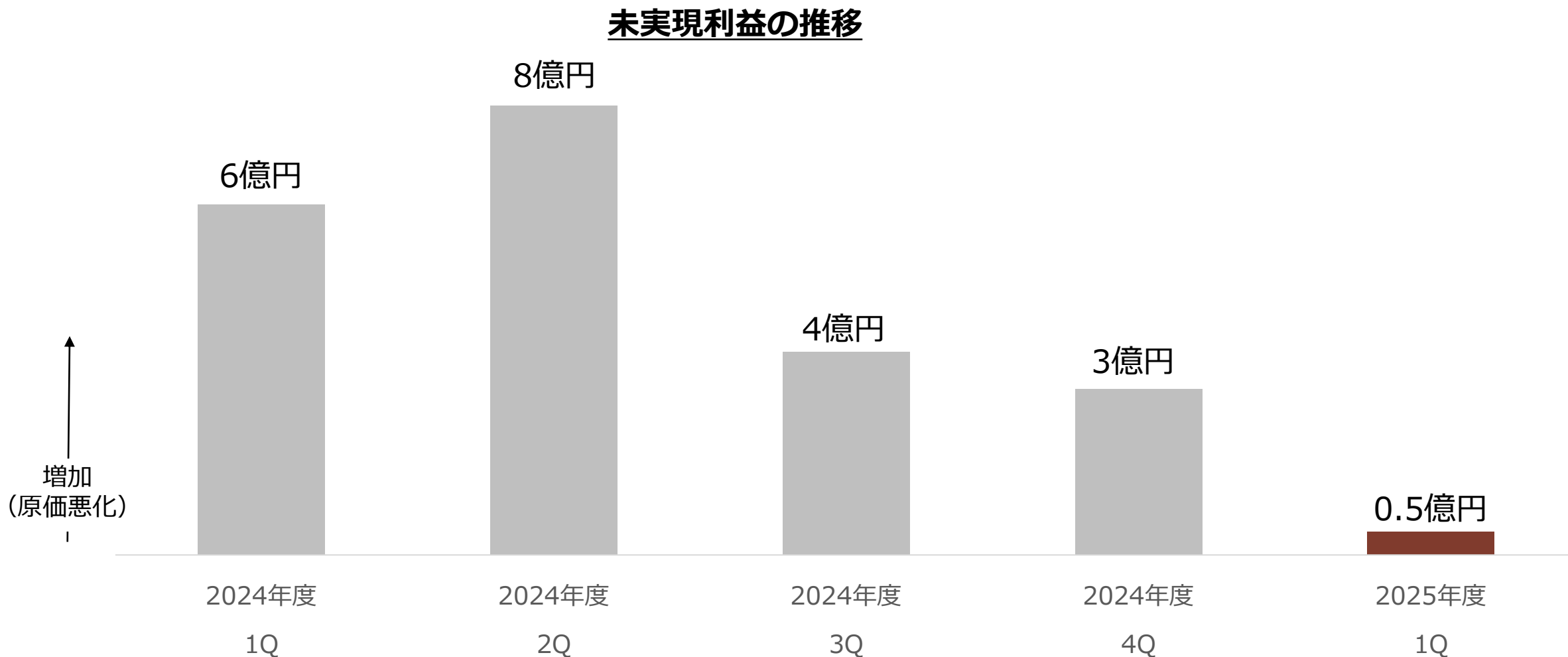
investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

本資料に関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含んでおります。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により販売中止、または売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。
- 本資料には、医薬品（開発品目を含む）に関する情報が含まれておりますが、それらは宣伝広告、医学的なアドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料において提供される資料ならびに情報は、予告なしに、変更・追加・削除されることがあります。

Appendix

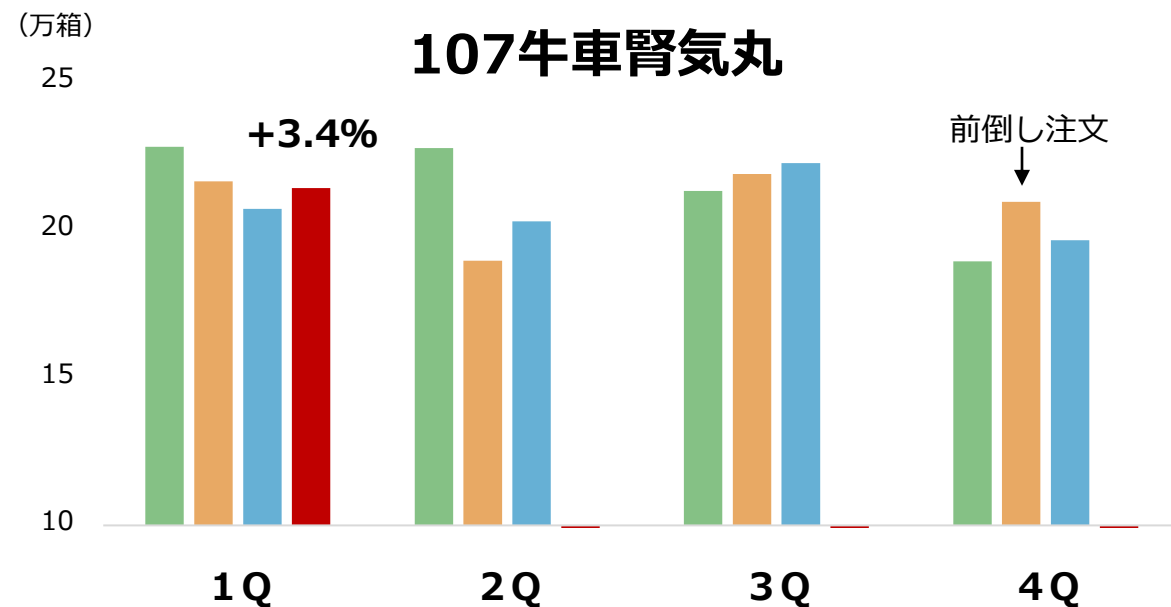
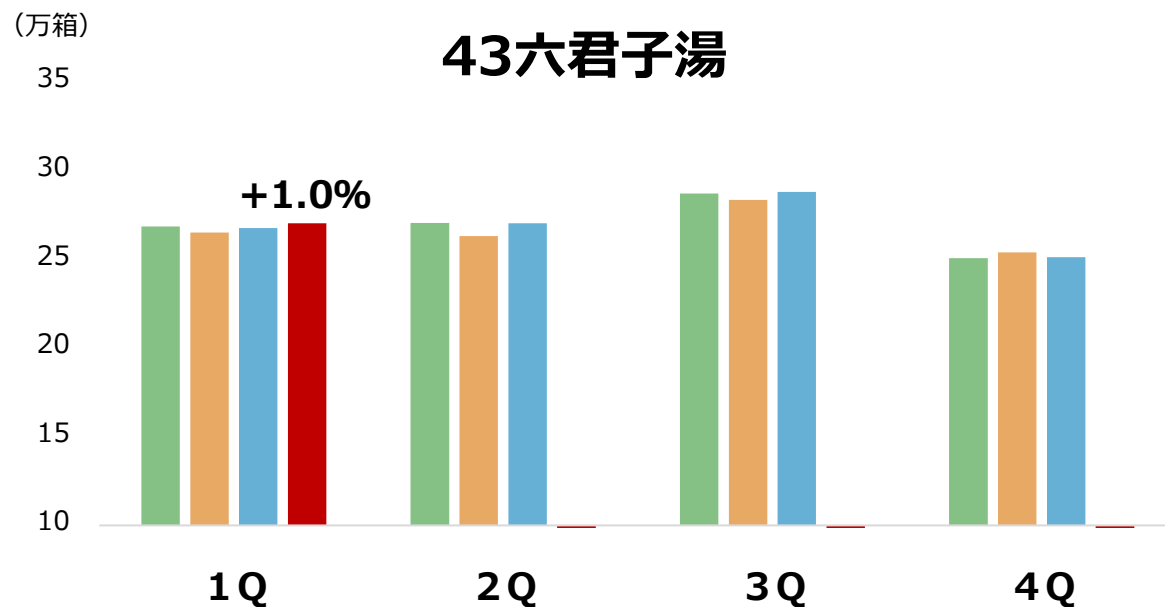
BCP対応としての生薬在庫の確保にともなう未実現利益は2Qから増加する見通し



国内事業：実売数量推移（六君子湯・牛車腎気丸）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



限定出荷期間：22年8月～23年4月

22～23年度:限定出荷期間中の情報提供を抑制し、新規症例の獲得ができないなかでも、横ばいの状態を維持。

24～25年度:消化器領域処方を使い分けなどの情報提供により、領域全体での回復を目指す。

22～23年度:限定出荷期間が長期間だったため、解除後の回復に時間を要した。

24年度:薬価改定による前倒し注文（4Q）の影響により、1Qが減少。

25年度:高齢者領域における夜間頻尿などの使い分けにより、関連処方を含めて伸長。

国内事業：実売数量推移（半夏瀉心湯・加味帰脾湯）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

(万箱)

5

14半夏瀉心湯

+2.4%

4

3

2

1Q

2Q

3Q

4Q

22～23年度:限定出荷期間中の情報提供の抑制もあり、横ばい状態。

24年度:消化器症状（逆流性食道炎による胸やけ、過敏性腸症候群による下痢、口内炎）等の施策により順調に伸長。

25年度:がん領域の口内炎に対する施策などを展開。

(万箱)

7

137加味帰脾湯

+5.9%

6

5

4

3

1Q

2Q

3Q

4Q

22～23年度:コロナ後遺症の不安、不眠などの需要により伸長。

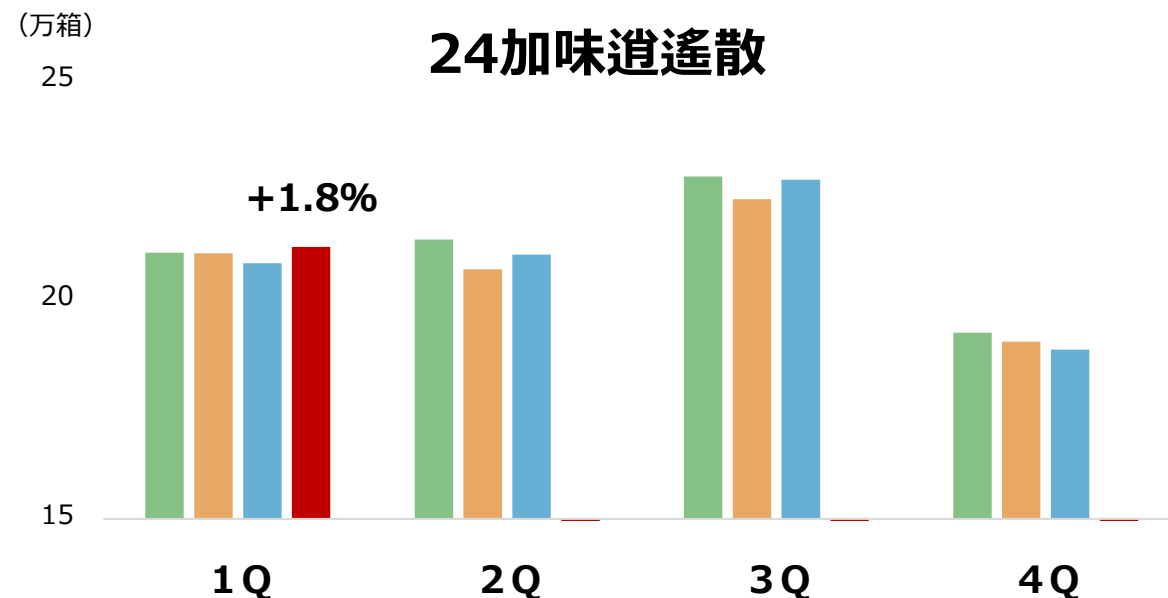
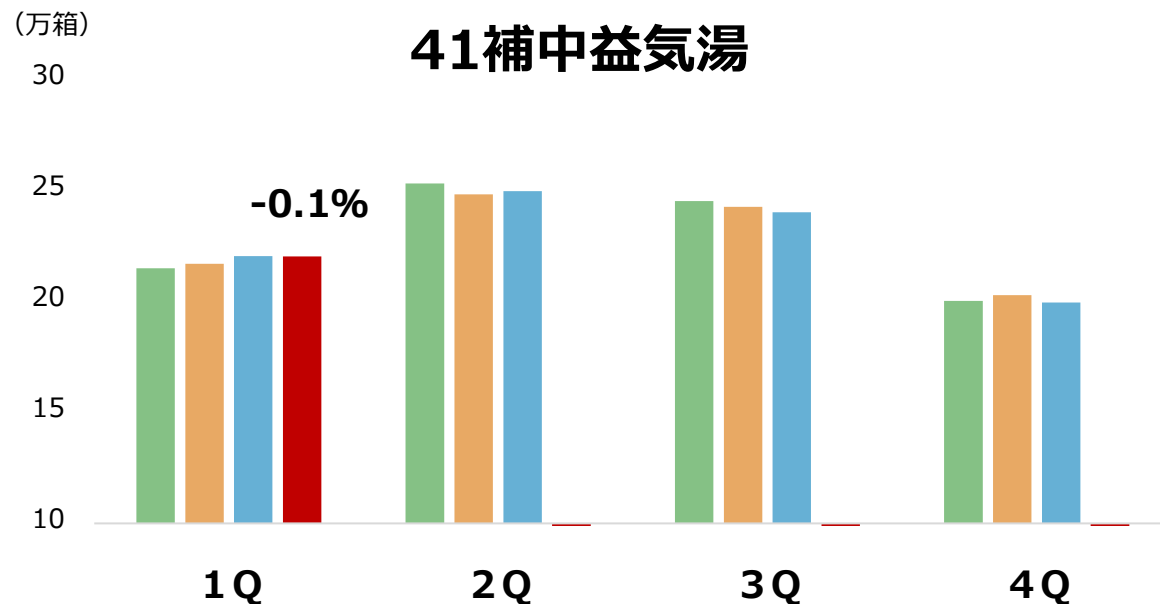
24年度:不安・不眠の処方として認知が広がり継続的に伸長。

25年度:女性関連領域における月経前症候群（PMS）の使い分けなどにも展開。

国内事業：実売数量推移（補中益気湯・加味逍遙散）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



22～23年度:コロナ後遺症や倦怠感等の需要があり伸長。

24年度:夏やせなどにも使われ、横ばい状態。

25年度:がん領域の食欲不振（低栄養）に対する施策などを展開していく。

22年度:コロナ後遺症の倦怠感や不安の症状で伸長。

23～24年度:コロナ需要が減少から横ばい。

25年度:女性関連領域における月経前症候群の使い分けなどの施策により回復を目指す。

中国事業：生薬プラットフォーム 原料生薬の売上高の推移

(百万円)

6,000

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

1Q

2Q

3Q

4Q

■ 2023年度

■ 2024年度

■ 2025年度

原料生薬
売上高



中国事業：生薬プラットフォーム 飲片の売上高の推移

(百万円)

1,000

800

600

400

200

0

1Q

2Q

3Q

4Q

■ 2023年度

■ 2024年度

■ 2025年度

飲片
売上高

